

(2) 東北



東北地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

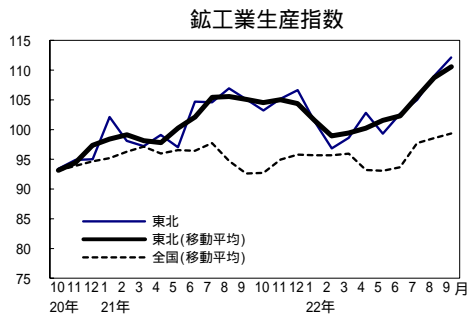
前回からの主要変更点

	前回(令和4年9月)	今回(令和4年11月)	
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

7 - 9月期の鉱工業生産は、生産用機械は半導体製造装置等が増加したこと、化学・石油製品はガソリン等が増加したこと等により、前期比7.0%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	15.3	5.4	2.6	0.0	6.3	10.2
食料品	11.0	8.5	1.8	9.9	0.8	26.2
化学・石油製品	9.1	9.8	27.6	19.8	6.4	12.7
輸送機械	7.9	16.3	5.4	7.0	1.2	10.8
生産用機械	6.7	2.2	37.6	13.1	23.8	1.4
鉱工業	100.0	2.7	7.0	2.3	3.8	2.8

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7 - 9月期、9月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

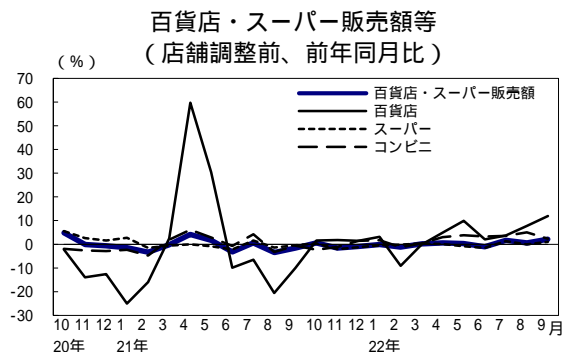
7 - 9月期は前期比 0.0%増となった。月別にみると、7月は前月比 0.7%増、8月は同 0.9%減、9月は同 0.6%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7 - 9月期は前年同期比 1.4%増となった。月別にみると、7月は前年同月比 1.6%増、8月は同 0.6%増、9月は同 2.1%増となった。

百貨店は、7 - 9月期は前年同期比 7.3%増となった。

スーパーは、7 - 9月期は同 0.7%増となった。

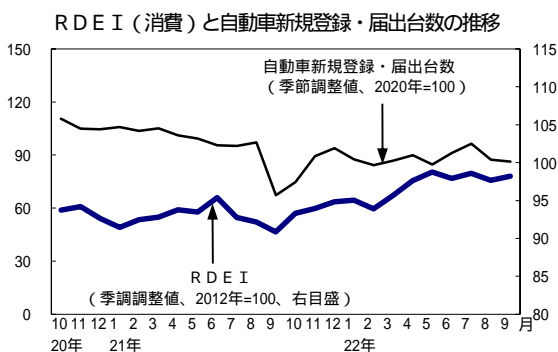


	2022年7-9月	2022年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.0	0.7	0.9	0.6
百貨店・スーパー(*2)	1.4	1.6	0.6	2.1
百貨店(*2)	7.3	3.6	7.6	11.9
スーパー(*2)	0.7	1.3	0.1	1.0
コンビニ(*2)	3.5	3.5	4.9	2.2
乗用車(*3)	6.1	0.2	9.0	28.7
(季節調整値)(*3)	1.6	5.7	9.4	1.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

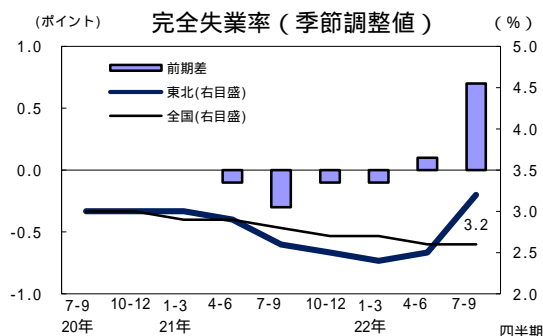
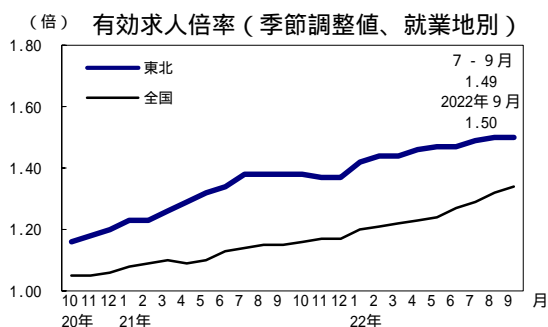
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年10月調査）景気判断理由の概要

2. 東北

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	□	・懸念された相次ぐ値上げによる生活防衛の動きは、食料品の一部でみられた。しかし、県内外からの旅行者の土産需要や、外出自粛の緩和による外出アイテムの動きがそれ以上に目立っている（百貨店）。
		▲	・物価上昇、建築資材不足等により当初計画の見直しが必要になっている。縮小や減額案を作成しているうちに、更に見直しの追い打ちを掛けられて、進まない案件が出てきている（設計事務所）。
		○	・中旬以降、団体の予約状況、振りの客共に増えている。クーポン利用の客が増えており、販売量が増え単価も上がっている。景気は良くなっている（観光名所）。
	企業 動向 関連	□	・販売量の前年割れが継続しており、3か月前と比較しても変化はない（食料品製造業）。
		○	・新規設備投資案件の引き合いが徐々に増えてきている（一般機械器具製造業）。
		▲	・取引先の発注量削減など、景気悪化懸念による影響が出始めている（広告代理店）。
雇用 関連	□	・新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなってきたため、人手不足が顕在化し企業の採用意欲は旺盛である。しかし、労働力人口の減少から採用につながらない状態にある（その他雇用の動向を把握できる者）。	
	○	・イベント開催による人出の増加や全国旅行支援等の追い風もあり、前年と比べ宿泊業、飲食サービス業、卸売業、小売業において求人数が伸びている（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント			◎：全国旅行支援の効果もあり、鉄道を利用した旅行者を始め、流動客が増えてきており、それが来客数の増加につながっている（その他小売 [ショッピングセンター]）。 □：法人客への販売台数はそれなりに伸びているが、個人客への販売台数が少なくなっている。さらに、販売停止の車も増えてきている（乗用車販売店）。
分野		判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連	□	・商品の値上げが続いており、客の財布のひもは相変わらず固い。冬になり暖房費を節約する家庭が増えている。この状況は続きそうである（スーパー）。
		○	・12月は少しずつ忘年会の予約が入ってきている。状況はこれまでよりは幾らか良くなってきたようである（一般レストラン）。
		▲	・全国旅行支援の延長があれば良い状態は続くが、なければ今より動きは悪くなる（観光型旅館）。
	企業 動向 関連	□	・新型コロナウイルスの新規感染者数がまた増えてきた。円安等の影響もあり物価の上昇も収まらない。さらに、今後インフルエンザの流行も予想される。これらの要因が景気の上向き傾向に水を差すことになるのではないかと懸念している（輸送業）。
		○	・全国旅行支援が12月まで実施されるため、円安による物価高を考慮してもサービス、小売関係は業績の回復傾向が続くとみている。また、部材不足等により建設、製造業で原価高騰が生じているが、一定の業績を確保するとみられるため、全体としては景気がやや良くなる（公認会計士）。
		▲	・景気は悪くなると予想している。ただし、世界的な納期遅延が落ち着き、新型コロナウイルスの感染状況も落ち着けば、景気が上向くことが期待できる（電気機械器具製造業）。
雇用 関連	□	・物価上昇と円安が続き、消費の悪化による新聞広告への影響が懸念される（新聞社 [求人広告]）。	
その他の特徴 コメント			○：気温低下に伴い、防寒アウターニーズが一気に高まると予測する（衣料品専門店）。 ▲：当面は物価の上昇が続くとみているため、景気はやや悪くなる（通信会社）。

(D I) 現状・先行き判断D I（東北）の推移（季節調整値）

